

ADULT ONLY !!

萌東方幻想郷

東方春秋精

TOUHOU LILYx2 FANBOOK.

Luft Forst

リリーホワイト(以下初作)『みんさん、お待たせしました〜〜☆
 今度もいつも通りにお送りしますっ♪全国248人の皆さんに向かって
 お送りする(ちょこっと増えた。)、乗っ取りあとがき！！』

はっじまるよあ〜〜♪』



KAZAMI 滞(以下滞)『どうも。アンニュイな貴方の心にそっとムーンサイド。
 …LuftForst 代表のKAZAMI 滞です。決してロリ好きじゃないです。誤解です。』

初作『…あ、あホ？え、え〜と……、な、なんかへ〜だね……。
 な、なんでだろう？…っあ、そ、そうだ！いつもならここで、
 お姉ちゃんが挨拶するはず…なんだけど……？』



滞『うむ。実は今回はちょっと趣向を凝らして、リリーブラックにはご退席願ったんだ。
 …いつもいつも慌しくなっちゃうからなあ…。たまにはいいんじゃないか？』

初作『ふえっ！？…そ、そんなの！？し、知らなかったよそんなの……
 (だ、台本にも書かれてなかったのに……(ハ？ハ？))
 じゃ、じゃあ……今度ももしかして、
 あ、お兄ちゃんと、ふ、ふたり、きり…で？ ヤルの…？……//』



滞『ああ……最後までずっと、二人でヤルぞ？
 …じゃあ、その仮初めの台本は横にどけて……。そしてもっと、ホワイトのカワイイ声……
 みんなに聞かせてあげないと……(スカートの中に指を入れつつ。)]

初作『…ひゃあま！？だっ、ダメだよお兄ちゃん！！
 …こっ、こんなところでなんて…うう>w！
 ………っあ、あとで、お姉ちゃんにっ、いっ、言いつけちゃう、よっ！？
 …っ…あっ、そこはっ！？あうっ！！』



滞『そんな事言っても、下のお口は可愛く濡れてるぞ？
 だめじゃないか、ブラックがいないからってこんなにして……
 これはまたお仕置が必要みたいだ………！(チャックを降ろしつつ。)]

初作『ちょ…ちょっと待ってま！ダメっ！ダメだよあ！！…こ、こんな
 みんなが見てる前で、なんてま………！っふあまっ！？ちょ、ちょっと！？
 そんなまっ…、う、後ろからなんてダメっだよあぁ………！！？』

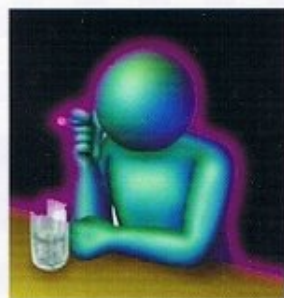
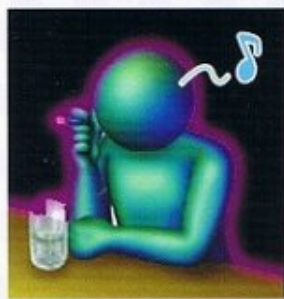


滞『じゃあ……ホワイトのアソコも準備出来たことだし、
 このまま後ろから抱っこHでリリー乗っ取っちゃうねっ………！！』

初作『いやあんっ……！！やあまっ…あっ！お、おにいちゃんのが、
 おにいちゃんのがま………入ってきちゃうヨヨ………！！』



滞『ふふふ……！今回のあとがきは特別編なんだっ………！！
 いつもならここでブラックが乱入するところだが、今回はそうはイカせないぞっ！！
 このまま…このまま、リリーホワイトをっ…っ！！』







リリーブラック（以下ブラック『このアホがああああああああああ！！！！！！！！』

滯『ギえええええええええええええええ！！！！（魔剣ミスティルティン通過中）』

ブラック『しばらくそこでヤタガラスのエサでいなさい！！この◎AZAMI がっ！！
 まったくもうっ……………ホワイト、大丈夫だった？
 もし性的トラウマになったらアイツの幻想裁判にかけてやりましょ』

初作『あ……………うん、もうだいたいじょうぶ…。ありがとうお姉ちゃん。
 （……………ちょっとだけ+カに、入っちゃったけど……………）
 ……そろえば、お姉ちゃんドコに居たの？
 なんかお兄ちゃんが今日は来ないって言ってたんだけど……………？』

ブラック『ああ。あのバカ、私の食べた焼きイモに『睡眠薬』を仕込んでたのよ！
 しかもさっきアイツの部屋から回収した袋に『えーりん特製！妖精グッスオン』とか
 書いてあって特別製みたいだし。起きるまで時間がかかったわ。
 まったく……………いつもホワイトに使ってる睡眠薬になら耐性あったんだけどね』

初作『？いつも？？いつもわたしに使ってるって睡眠薬？
 ……そんなの寝るときにも使ってないけど、何それ？』

ブラック『あ、い、いや何でもないわっ！！
 ……気にしないでいいわよ？（あ、あぶないあぶない……………うっかりしてたわ）
 そ、それよりっ！！今回はこのあとがき特別版だって言うじゃない？
 ………………こんな馬鹿でも復活させないと先に進まないわね』

初作『あ、う、うん……………そうだね。
 じゃあ、わたしが最近覚えたスペルカード、
 春恋『リヴァーススプリング』を使って、お兄ちゃん戻してみるよっ……………！』

ブラック『ええ、お願い。
 ……こんなヤツに覚えたてのスペカ使うのなんて勿体無さすぎるけどね。
 ……まったく。ちょっと目を離すとスグにホワイトに
 妖精クハラするんだからっ……………！あのバカは…』

初作『……………あ、お兄ちゃん起きたみたいだよ？
 おはよう、おにいちゃんっ♪ 大丈夫だった？』

滯『……………はっ！？ここはドコだ！！俺のやわらかくていい匂いがする
 リリーホワイトの（検閲削除）はどこにいったんだ！！？？』

ブラック『……………やっぱし、今度は再生できなくなるまで細かく斬って
 地核マントルで燃やしてあげようかしら？』





リリーホワイト&ブラックの
東方春秋精 大乗取後書！！





滯「はっはっは。冗談に決まってるじゃないかブラックお嬢様！！
 だからおりんりん死体運搬サービスに携帯で連絡するのはヤメテ！！
 猫車は乗り心地悪いし！！（泣）」

ブラック『はあ……………、まあいいわ。
 ページ数の都合もあるしさっさと読者のお便りコーナー行くわよ？
 どうせアタがまたヘンな事してもホワイトの復活スベルがあるし。』

滯「殺す気マンマンですね。わかりたくないです。……………んじゃ早速1通目いくぞ。
 大学生、カタログ片手に名無しさん（21）からのお便りだ。

——— 毎回楽しみにしています。次の乗っ取り後書きでは
 是非リリー姉妹と**野球拳対決**をお願いします！ ———

……………ほほう、これはまたリアルでは幻想郷入りしそうなモノを推薦してきたのう…。』



ブラック『一通目から痛いお便りね……………
 87幻想郷の外にはこんなヤツしかいないの？まったく、頭痛くなってくるわ……………。
 まあいいわ。要は勝てばいいんだし。
 言っておくけどジャンケンはかなり強いよ？』

初伊『お姉ちゃん、すごい強運だもんね〜。
 じゃあわたしは音頭をとるね。それじゃ始めるよ〜♪

や〜きゅ〜〜うう〜〜〜♪す〜〜〜るたらあ〜〜〜♪

（少女拳闘中……………）



ブラック『ふふん。私の勝ちよ？…ザンネンだったわねー。
 せっかく読者サービス出来るいい機会だったのにねえ。
 まあ、お兄様が弱すぎるのが一番の原因だけだ。（ニヤニヤ）

滯「はっはっは。俺の負けか。
 じゃ、そういうコトなので **パンツ脱いでくれ。**」

ブラック&初伊『へ？』

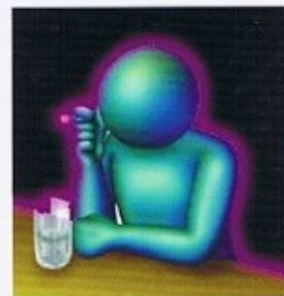
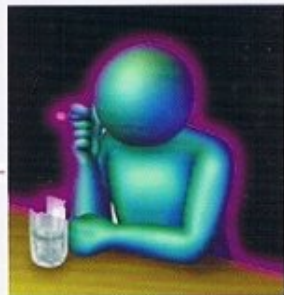
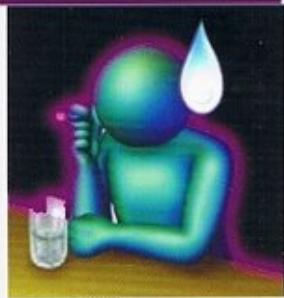


滯「ん？言ってなかったか？？」

……………
 幻想郷の野球拳は勝った方が脱ぐルールになってるんだぞ？
 幻想郷では常識に捕われてはいけないのですよ奥さん！
 あ、あとページ数の都合があるんで脱ぐのはぱんつオンリーでヨロシク。』



ブラック『ちよっ、ちよっと待ちなさいよ！！
 そんなのおかしいでしょアツー……………って！！ひゃ、ひゃうっ！！？
 ちよ、ちよっと！！な、ななんでも勝手にパンツずり下がってるのって……………
ひゃああああああああ！！！！？？』







莉白『ご、ごめんねっ、おにいちゃん！
 ホントはもっと蘇生には時間かかるんだけど、ページ数の都合で
 早めに復活させないとだめみたいで………が、我慢してねっ♪』

澪「………なんか復活する度に、体のパーツが減ってきてる気がするが………

あ、**右腕とれた。**
 ま、まあ、幻想郷の摩訶不思議と思って、頑張る、ぞ………。
 次のお便り、 自宅警備員 蓬菜 NEET さん (32) からのお便りだ。

--- 普段は出来ない銘酒の差し入れをさせて頂きました。
 是非リリー達と共に御賞味下さいませ。 ---

…というわけで頂いたお酒がこちら、『銘酒 水道水』だ。
 …これも幻想郷入りしてるっぽいなあ………って、あれ？
 なんかもう中身が空っぽだぞ？………なんでだ？？』

ブラック『………
 ……………お兄ちゃん………』

澪「っ！？はっ、ハイッ！！ななな、な、何でしょうか！？
 黒百合サマ！?? (やばい、またナニか怒らせたかーっ!?)」

ブラック『………わたしと……エッチ、しよ？(涙目上目遣いで)』

澪「くぁ w 背 drftgy ふじこ l p ; @ : 「」 !!????」

なっ、今何といたしましたかクロユリサマ！！??
 っとうおおいちょっと！！パンツ上げるなああ！！??』

ブラック『おにいちゃんと一緒にえっちなコト、して………
 気持ちよくなりたい………ダメ?』

澪「いやいやいやいやいや、ダメっていうかむしろ朝まで
 サタデーナイトフィーバーでも一向に僕は構わないんですがっ！！
 じゃなくてっ！！さてはブラック、このお酒全部呑んだらっ！！??』

ブラック『今日だったら………**中に**………ぜんぶ出しても………
 ……………いいよ…(もちろん涙目上目遣いで)』

澪「うおおおおおおおおお！！俺の東方プロジェクトは
 こんなにも有頂天だああああああああ！！ (泣)

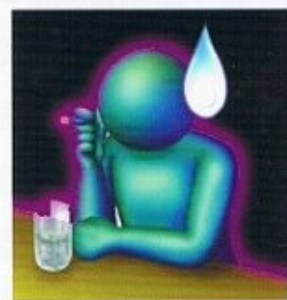
やばい、これはまた違った形でリリーブラックのファンが
 全裸で待機するきっかけになってしまうぞっ！！??』

ブラック『………じゃあ………おにいちゃんの…
 挿入れちゃう………ね………?』

澪「あああああ待って待って、こんな形の愛はファンも望んでないぞ!?
 いやむしろ望んでるファンも多いのか!!!」

どっちだ!!!? いやそんなことは今はどうでもよくて、ってあああ!!!

先っぽが入るっとうわああああ!!!??』







膾内奥深くまでガマン出来なくなった
チ●ポで扶られながら…射精した。
しかし、こんな無防備でエッチな
黒百合様を前にしておきながら、
このまま終わる訳もなく……

酒に酔ってるブラックの中は
とても熱くて、ぬるぬるで…ッ！
これでは射精しないと言っ方が
ムリなレベルの気持ちヨサで……



可愛くあえぎ鳴くブラックを押し倒し、
 何度もそのやわらかなオマ●コに
 チ●ポを挿れたり……射精したり……

普段のツンデレの反動なのか、
 子猫みたいに涙顔で発情するブラックに
 何度もナカで膣内射精……した。
 そんな俺の耳に、横で同じく酒に酔って
 寝ていた、もうひとりの妖精——
 リリーホワイトの寝息が届いて、しまった……

IA



ブラックと同じようにホワイトも愛してあげないと……
そう思いながら、お互いの下半身を密着させてゆく。
良い匂いのするホワイトの寝顔を見ながらチ●ポを容赦なく
膣内までミチ……ミチ……と侵攻させてゆく。
ブラックとはまた違ったマ●コの感触に、
腰が勝手に動いてしまう。
ホワイトを内側から白く染めてゆく——



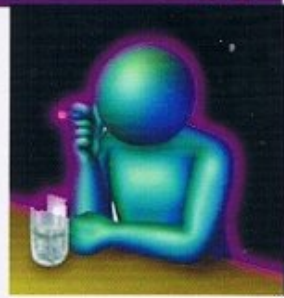
— 気が付いたら、全身精液まみれのリリーが目の前にいた。相変わらず大きくなったままのチ●ポをホワイトのクリに押しつけて……何回目になるかわからない射精をする。ぐったりしたリリーホワイトとブラックのオ●ンコに交互にチ●ポを押し込んでしこまくる。

理性なんて既になく、本能のまま二人の妖精を犯し続ける…

A



澤「……と、というような感じのストーリーで
 あとがきを書こうと思うんだが……どうかな?かな?」



ブラック『百辺くらい死んでこいっつ!!
 この全人類の女性の敵がっつっつ!!!
 秋終『春歌秋踏』!!!!』

澤「オト*ウルク*ツタンデ*イスクー!!!!!!」



ブラック『こんな鬼畜なストーリーが通るワケないでしょうが……バカなの?
 そもそも野球拳もお酒も危険なモノって知ってるわよ。無様ね』

初作『あ…もうページがないよ?お姉ちゃん??
 次の本の告知しないと間に合わないよ〜〜〜』



ブラック『次?ああ……次は3月の第6回例大祭になるわね。
 この醜い肉片になってる大変態のサークル活動も6年目に入るわね』

初作『肉片になっても頑張ってるね、おにいちゃん☆
 じゃあみなさ〜〜〜ん、また例大祭で会おうねっっ♪♪♪』



澤「に…肉片オチ、って……新し…い……ジャンル……だよ……ね。(ガクリ)」



※グロ画像規制中

Luft Forst / Rei KAZAMI

2008 WINTER NO.16